



増刊号（2025年3月30日発行）
発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

四国手話講座担当講師研修会開催！

2025年3月9日（日）、高知市文化プラザかるぽーとで第14回手話講座担当講師研修会が開催されました。今回の増刊号で、この研修会の内容を報告します。

この研修会は、四国ろうあ連盟と四国手話通訳問題研究会の共催で毎年開催しております。各県で手話奉仕員養成講座や手話通訳者養成講座を担当する講師及び専門学校等で手話指導を担っている講師（会員外含む）が参加しました。今回、午前は全体会で講演を、午後はグループ討議を行い、幅広い討議が行われました。



【全体会】

講師の岩本重雄氏は長く手話講座養成にかかわっていますので、講師として大切な事は何か丁寧に分かりやすく話してくれました。手話が社会の中でどのように認識されていったのか、それと同時に手話辞典、手話講座のテキストが変わっていききました。それは私たちの運動とともに変遷していったのです。



テキストのタイトルは「手話教室」から「手話を学ぼう・手話で話そう」に変わり、指導の点においても会話が重視されるようになりました。令和5年に改訂されたテキストの進め方も具体的に示してくださり、今後の指導の進め方についてとても参考になりました。

そして、最後にこうまとめられました。

◎ねらいに沿ってしっかり指導する

ねらいに沿っていけば、他の教材を工夫して使うことはよい

◎指導書通りに進めなくても、あくまでも参考にしてもらったらよい

◎個人が指導しているのではない。講師団の一人として講師であるという責任をもって進めて欲しい。悩みや困ったことがあれば、何でも手話研修センターに相談してほしい

今後の指導に役立つ沢山のヒントをもらいました。今までの自分を振り返り、ステップアップしていきたいと思います。

午後は、参加者が5つのグループに分かれ、指導歴や担当講座の種類を問わず幅広い立場から討議を行いました。このうち2つのグループの報告を掲載します。



このグループは講師としての経験の長い人達が集まりました。

まず、午前の岩本氏の講演の中で「グー」これは良いとか病気とか元気といった「グー」を持っていく位置によって単語の意味が違ってくるといった話があったことから、「いい家」の手話の表し方は「良い+家」で構わないのか、いい家とは何を意味するのだろうかと一人の疑問のなげかけがあり、それに対して、しっかりした家や立派な家、近くにはスーパーがあるとか病院があるなど、家そのもの又は周りの環境などいい家に対するイメージが膨らみ、岩本氏のお話の中のイメージカに繋がるスタートとなりました。こうした講演の話の踏まえて講座を担当する講師としての心得について発表をしてもらいました。

講師自身は学習の事前準備、ペアとの良い関係性を作る意味でも打ち合わせは大切。受講者に向けては一講座ごとに納得してもらえる講座にする又は講師は技術だけを指導するのではなく社会を知ってもらうための発信者にならなければならない。そして通訳者としての見本となるようにという意見やわかったという達成感を持ってもらえるように心掛けているなど、あつい思いの発言一つ一つに気づきや意見またアドバイスの飛び交った場となりました。

私たちの分科会は、経験年数5～10年位の方々が集まり、午前中の講演を聞き気付いた事や分かったことを出し合いました。そうすると幾つかの共通点がありました。

- ・ロールシフトがはっきりした
- ・講師の表情を見て引き出し方に気づき、名詞にも表情があると分かった
- ・今までのテキスト作成の流れや広辞苑での「手話」の記載の変遷を知った
- ・新しいテキストの指導は丁寧に、そしてイラストを使うなど基本に戻る事など

そして講座運営をするためには講師としてどうあるべきかを考え、どんな受講者になってほしいのかを一人ひとりに発表してもらいました。手話で会話のできる人を増やす事や通訳者を増やす事は勿論ですが、ろう者への理解や生活を知ってほしい、手話サークルに入る、行事に参加するなど興味を持ち続けてほしいなどが出ました。テキストの指導だけではなく手話を広められる人を増やすためにも、講座を楽しくする工夫も出し合いました。

一緒に活動できる人を増やすことを常に頭の中に入れ運動に繋ぐためにも講師自身が知識を習得し、今回のような研修会に参加し他県の講師の考え方を知り意見を交わすことは、とても大事なことだと痛感しました。

2025年度の研修会は、2026年3月に愛媛県で開催予定です。詳細が決まりましたら各支部よりお知らせします。